

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(10月1日～10月7日)

2019年10月8日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、ゼレンスキー・ウクライナ大統領との会談、ベラルーシ・ウクライナ地域フォーラムへの参加(10/4)

●ルカシェンコ大統領、ユーラシア経済同盟ハイレベル協議出席(10/1)

●ベラルーシIT産業特区「ハイテクパーク」の入居企業が増加。

大統領動静

●ゲオルギー・マルグヴェラシヴィリ・ジョージア前大統領との会談(10/7)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・二国関係について我々は、土台を作り上げることが夢に見てきた。現在、首尾上々であり、もう家を立てることができる。(当館注: 二国間関係進展に向け具体的な案件に取り組むことを示唆)
- ・ベラルーシはジョージア国民と特別な関係がある。ジョージアの記念行事「トビリソバ」には 1000 名超ものミンスク住民が集まった。ベラルーシに住むジョージアの方々も沢山いらっしまった。
- ・国際情勢については、我々は熱々の大鍋にいるようである。全面から熱せられている。

ゲオルギー前大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・ジョージアで「ベラルーシ産」は、その質の高さからブランド化している。特にベラルーシの乳製品は高く評価されており、その分野において有望な案件がある。
- ・ミンスクにおけるジョージアの記念行事「トビリソバ」を開催頂き感謝する。
- ・国際情勢について、地域、そして世界の安定強化に向けたベラルーシの国際的なイニシアチブを高く評価する。

(10/7 大統領府公式サイト)

●ゼレンスキー・ウクライナ大統領との会談(10/4)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・本日合意する内容は、全て神聖に履行される。

・我々に整列を余儀なくする国境はあるが、人々の間に国境はない。それぞれ違う言語で話しているが、それぞれの言語はとても近く、我々はお互いに理解できる。

・ベラルーシにとって、ウクライナ国家国民との相互関係の実用主義的な基礎だけでなく、歴史に根付いた深く大きなイデオロギーがある。現在我々が抱える問題を一緒に乗り越えていく。ウクライナは、ベラルーシの領土とは一度も問題が無かったし、今後も問題は発生しないと保証する。我々は常に最も善く、頼るになるあなた方の味方、パートナーである。

・マスメディアや政治は、本会談を巡り、不要に大騒ぎしていたであろう。最初の数分で、我々はお互いに近い人間であり、また共通の問題を抱えているとすぐに理解した。

・ウクライナ東部の問題は正常化する。現在の大統領(当館注: ゼレンスキー大統領)の示している戦争終了にかかる根気強さは首尾良く終わるであろう。

・私は単にそれを願うだけではない。我々は、ウクライナが統一され、強くあるように、一緒に取り組んでいく用意がある。

・経済貿易関係は協力の基本である。今年の二国間貿易高は55億ドルから60億ドルと合意した。しかしこれは取るに足らない。あなた方から100億ドルに到達できると提案があった。かつては80億ドルであった。我々の協力には、単純な貿易だけではない。両国間政府委員会を立ち上げ、キエフにて集会し、共同企業設立に関する具体的な決定を行う。現在、ウクライナではベラルーシ企業 9 社が活動している。

・ベラルーシではミサイル製造分野の発展に注力して

いる。これまでベラルーシではミサイル製造はなかった一方で、ウクライナにはそれがある。あなた方が我々を助けてくれることに関心を持っている。仮に助けてくれる場合、1年半から2年、それができなければ4年、5年かけて一緒に実現していく。

- ・一方で、ベラルーシは乗用車、トラクター、ダンプトラック等製造分野における共同企業設立に向け投資する用意がある。

- ・公式・非公式問わずいつでもベラルーシにお越し頂きたい。

ゼレンスキー大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・両国家に、特に両国民にとって国境は無い。両国民は非常に仲良く、心理的に絶対的に近い。良好な関係と隣人が居ることを誇りに思う。

- ・ウクライナ東部での紛争調停に向けベラルーシの担っている役割に感謝する。

- ・貴方とは素晴らしい会談ができた。お会いできて光栄である。我々の関係は改善の道しかない。

(10/4 大統領府公式サイト)

●ベラルーシ・ウクライナ第二回地域フォーラムへの参加(10/4)

全体会合におけるルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・ウクライナ国民、そしてウクライナ大統領、兄弟国であるウクライナの訪問、並びに第二回地域フォーラムへの参加のため招待に感謝する。

- ・時は、我々に時計を合わせる機会、そして将来性に目標を置く機会を提供した。我々は二国間協力の活性化に向けた提案を注意深く調べる用意がある。

- ・初の首脳会談は、古くからの国家間関係の強化と発展に向けた第一歩となった。今回の会談は、協議事項の内容と量から単なるお見合いではない。正に、ここ数年で形成された堆積物の整理作業であった。

- ・二国の州、地方、都市間には120もの協力に係る合意書が締結されている。これらは、永続的な形で、二国間の経済、貿易、文化、人道的な結びつきの発展を保証している。この相互作用の規模は、2018年に

ゴメリでベラルーシ・ウクライナ第一回地域フォーラム開催を可能とした。そして、商業交流、総計約1億ドルもの合意書は、そこにおける対話の結果となった。本フォーラムでは総計5億ドルをもたらした。重要なのは履行されることである。

- ・ウクライナがベラルーシにとって重要な貿易パートナーであることは言うまでも無い。貿易高は、昨年だけで25%近く増加したが、これは我々の可能性の限界から依然遠い。燃料エネルギー分野、農業コンプレクス、産業協力、ロジスティクス分野が優先事項となるであろう。ベラルーシは、ウクライナ企業のために石油精製品の納入を増加する用意がある。また2020年のベラルーシ原子力発電所の始動以降、ウクライナの原子エネルギー分野の知見が非常に興味深いものとなるだろう。最も有望な分野は、自動車製造、幹線道路の共同開発であろう。

- ・共同製造にも強く関心を持っている。ソ連時代、全ての共和国は、ウクライナにおける飛行機製造、ベラルーシにおけるトラクター製造、自動車製造に貢献した。ぜひ一緒にこのような共同製造企業を設立しようではないか。特に、ミサイル製造に強く興味を持つ。

- ・地域フォーラムは、効率の高さを示している。貿易量拡大という課題の解決において、ベラルーシとウクライナの州の重大な貢献を確認している。同フォーラムは2年に1度ではなく、毎年開催する価値があると考えている。

- ・ベラルーシとウクライナの友好は、特定の方向からではなく、東と西、両方から圧力を受けることになるであろう。しかし我々はこれらの障壁を乗り越えていく覚悟がある。我々は善き人々であり、誰かに反抗するために仲良くしたり、誰に対抗することを望んでいない。

- ・キエフで開催予定となっているベラルーシ文化の日の行事は、ベラルーシ国民にとって、ウクライナの友人に我々の心の一部をお渡しする素晴らしい機会である。

- ・ウクライナとベラルーシ、共同でハイレベルの国際スポーツイベント開催権利を求めることができればと考えている。

(10/4 ベラルーシ通信)

●ルカシェンコ大統領、ユーラシア経済同盟ハイレベル協議出席(10/1)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・第三国との貿易関係の発展について、10月に効力を有するイランとの自由貿易圏の設立に関する一時合意書については高く評価する必要がある。そしてシンガポールとの合意署名も非常に重要である。
- ・この場でロウハニ・イラン大統領、リー・シェンロン・シンガポール首相にご挨拶できることを嬉しく思う。イランとシンガポールは我々にとって非常に重要なパートナーである。特惠制度を強化し、ビジネスと政府を計画的な相互作用へと促すことが大事である。
- ・セルビアとの自由貿易協定調印についても用意がある。10月に中国との自由貿易協定に係わる合意書が発効する。6月に署名したユーラシア経済同盟と中国間の国際輸送に関わる商品・輸送手段の事前情報の交換に関連する合意書は、貨物の通過を加速させる。中国から我々を経由して欧州に繋がる陸送を最も魅力的なものとするため、委員会はEUとの同様の合意書を作成する必要がある。
- ・独立国家共同体、上海協力機構、ASEANの相互作用が積極化している。本協議にドドン・モルドバ大統領と挨拶できて非常に嬉しい。
- ・ユーラシア経済同盟の国際議題への拡大のためには、我々の商品やサービスの認知度が低い、遠い弧の国々(当館注:アジア、オセアニア、アフリカ、中東、ラテンアメリカ)に対し、特別な注意を向ける必要がある。この方向に向けてユーラシア開発銀行に加わってもらおうと提案したい。また我々の国立発展銀行や財務機構にも、連合内外でのより密接な相互作用のための形式を探してもらい必要がある。
- ・本日我々は、資本とサービスの自由な移動の確保のための基礎を築くユーラシア経済連合の共通の財務市場の形成について確認した。同市場の組織には、デジタル化との連動が必要となる。最先端のフィンテックを発展させ、同サービスの使用をより手頃な者とする。

- ・同時に情報安全にも注意を払い、統一基準や相互作用に向けたフォーマットを作成する必要がある。

(10/1 大統領府公式ホームページ)

トカエフ・カザフスタン大統領と会談(10/1)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・ベラルーシは、二国間関係の深化を目的としている。二国間のセンシティブな商品の貿易だけでなく、ベラルーシの大企業の株式資本への投資等、様々な提案を行った。これらの提案は、我々はあなた方を信頼しているということである。
- ・私の前回カザフスタン訪問が二国間協力の新たな段階に始まりをもたらした。ユーラシア経済同盟の枠組みにおける本日の協力に感謝する。カザフスタンは建設的な立場であり、我々に多くを物語っている。従い、我々は、二国間の協力発展への覚悟に満ちている。
- ・我々は0から関係を作る必要はないこと、つまり、お互いを知っており、貴方が大統領になる前から既知の仲である、ということには価値がある。
- ・国際貿易は将来危機に直面するであろう。多くの人々にとって辛い時期が来るであろう。しかし、我々は一緒に最も少ない被害でその危機を乗り越えていく。

トカエフ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・ユーラシア経済同盟における最も経験のある指導者として、ルカシェンコ大統領の仕事ぶりには注目している。
- ・カザフスタンへの公式訪問をお待ちしている。カザフスタン・ベラルーシの二国間関係は、戦略的性質を帯びている。カザフスタンは、ベラルーシの歴史、文化、メンタリティを尊敬し、ベラルーシ国民に対し特別に接している。

(10/1 大統領府公式ホームページ)

外交

- ヨハネス・ハンEU委員「モゲリーニEU上級代表のベラルーシ訪問延期の原因は、ベラルーシ大統領の

不在のため。」と発言

(10/7 ベラパン通信)

●モゼリーニEU上級代表のベラルーシ訪問、延期。

「未来の東方パートナーシップ」ハイレベル協議に伴い予定されていたモゼリーニ上級代表のベラルーシ訪問は、同協議の他の参加者の予定変更により、延期となった。

(10/3 ベラパン通信)

●ベラルーシとトルコ、2020 年-2021 年の高等教育分野における協力発展プログラムに署名。

イーゴリ・カルペンコ・ベラルーシ教育大臣とイェクタ・ベイ・サラチ・トルコ高等教育評議会会長は同プログラムに署名。同プロジェクトには、相互認証された両国の高等教育機関の相互作用や両国間高等教育機関の相互資格証明の実施等が含まれる。

(10/2 ベラパン通信)

●三者コンタクトグループ、シュタインマイヤー・フォーミュラに合意。(10/1)

10 月 1 日ミンスクにて三者コンタクトグループ会合が開催された。会合後、マーティン・サイディク欧州安全保障協力機構特別代表の発言要旨は以下の通り。

・9 月 11 日よりノルマンディー4 カ国の提案により、三者コンタクトグループおよびドネツク・ルガンスク地域の代表は、シュタインマイヤー・フォーミュラの文章を確認した。

・政治問題担当のグループにとって非常に大きな作業がある。選挙の実施について話す必要がある。そこには、選挙の安全性の問題をはじめ様々な問題がある。また、その後何があるのかという問題もある。これについてもいつか、選挙実施後、そしてシュタインマイヤー・フォーミュラの発効後に話す必要がある。

・今日、ノルマンディー4 カ国で話された内容しか確認していない。その他の問題は、また別途協議する必要がある。

(10/1 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣に対する露通信社 RBK に対するインタビュー

マケイ外務大臣の発言要旨は以下の通り。

・ベラルーシ領域内への露軍基地の設置は、政治的にも軍事的にも意味がない。この問題はロシアとの議題に入っていない。

・米国との貿易経済関係の発展、政治対話に関心がある。INF 全廃条約からの離脱に関しても米国との透明性のある対話に関心。

・ベラルーシと米国の関係正常化に関し、ロシアの個々の政治家からは様々な発言があるが、ロシア政治指導部が嫉妬を感じているとは思わない。

・ボルトン前米国国家安全保障担当大統領補佐官のベラルーシ訪問時、ルカシェンコ大統領とトランプ米大統領との首脳会談開催の可能性については議論されなかった。

・ロシアの政治家や国会議員による、ベラルーシが EU との査証簡素化・再入国協定に署名しようとしていることに対する否定的反応は理解できない。

・社会は 90 年代とは別ものとなっており、ベラルーシとロシアによる連邦やコンフェデレーションは実現しない。1999 年の連合国家条約の規定に沿っていない超国家機関に関する提案は、断じて受け入れられない。

・(ロシアによる)石油税操作、ガス・石油価格問題などの今表面化している課題を解決しなければ、統合に関する今後の行動プログラムについて述べるのは難しい。

・現時点で、統一造幣局の創設は協力プログラムに含まれていないし、話にも出ていない。

・現在策定されている国家統合プログラム或いはロードマップには共通税法典に関する事項が含まれているが、2、3か月の期間で作成できるとは思えない。

・ロシアがベラルーシにとって主要なパートナーであるとの理解を持ちつつ、世界のあらゆる方面に対してバランスのとれた関係を築くべきであるというのがベラルーシの立場。

・ウクライナ紛争の解決については、現在のフォーマットで上手くいっていない以上、この問題は米国抜き

では解決できない。米国にその用意があるなら、この問題に関与し、紛争解決に貢献するよう呼びかけるべき。

・バービチ前駐ベラルーシ露大使について、合意したことは遵守しなければならない、また、非公式に交渉すべき事柄を平場での議論に持ち出したりマスコミを通じて解決を試みることは、極めて有効ではない手法であり、それによって譲歩や利益を得られることはない」と批判。

(10/1 外務省公式ホームページ)

経済

【対外経済】

●ベラルーシ石油大手ナフタン社、10 月にパキスタンへの輸出を 30%増加する予定。

(10/4 ベラパン通信)

●ラトビア・ベラルーシ間鉄道定期線増加予定。

ミンスクで開催された国際展示会「運輸とロジスティックス」でタリス・リンカイトス運輸大臣は、「ラトビアは、ベラルーシ側から来る貨物を非常に嬉しく思う。我々はサービス、デジタル化、書類作業を改善していく用意がある。また2023年までに貨物運輸、旅客運輸のためのサービスがより早く、より便利になるために、ベラルーシ方面への鉄道の電子化を準備している。現在、ラトビアとベラルーシ間には、ミンスク-リガを結ぶ路線と、キエフ-ミンスク-ビリュニウス-リガを結ぶ路線の2つがある。夏期には、ラトビア・ベラルーシ間の鉄道を増やす可能性がある。」と発言。

(10/1 ベラパン通信)

●ベラルーシ・中国共同産業特区「巨石」にて中国建国記念日式典開催(10/1)

ベラルーシ国旗、中国国旗の掲揚の後、両国の国歌斉唱が行われた。その後、愛国歌のコンサートが催された。本式典は、中国企業組合が主催し、産業特区開発公社や建設企業その他企業が参加した。

(10/1 ベラパン通信)

【国内経済】

●ベラルーシにおける従業員の生産性はEU対比 6 倍の低さ

経済当局による国民生産性の調査によると、EU全体の生産性を 100%とすると、中東欧は 44%、ベラルーシは 16%であった。ベラルーシの生産性の低さの要因は、経済の浪費性の高さと、低い技術性である。

●ベラルーシIT産業特区「ハイテクパーク」の入居企業が増加。

ハイテクパーク事務局は、新たにオーストラリア、英国、オランダ、カナダ、米国、イスラエル、スイス等の 129 社を入居企業として承認したと発表した。他方学術技術専門家による審査の結果、8 社が入居拒否となり、さらに8社は入居ステータスを没収された。現在の入居企業数は 684 社。

(10/3 ベラパン通信)

●ミャスニコヴィッチ上院議長、上院第 7 セッション開会において経済に関する発言(10/2)

ミャスニコヴィッチ上院議長の発言要旨は以下の通り。

・2020 年は 5 カ年計画の最終年である。ここ 4 年間における国家経済発展の原因を考慮すると 2020 年における課題は非常に緊張を要するものとなる。国家が持つあらゆるリソースを動員する必要がある。管理機構の指導者、従業員だけでなく、全ての組織の労働者、取り分け、製造業やサービス分野に従事する者の努力の結集が必要となる。433 万 8 千人のそれぞれが高い生産性の労力へと昇華される必要がある。

(10/2 ベラパン通信)

治安・軍事

●ベラルーシ防衛省、「11 月にロシア軍用機CY-30 CM4 機がベラルーシに納入される予定」

同軍用機購入に関わる契約は 2017 年にロシア・ベラルーシ間で署名されており、現在は資金調整を行っている。

(10/2 ベラパン通信)

(了)